

「次元の異なる緩和策」の効果とリスク

東短りサーチ社長兼チーフエコノミスト

加藤 出

- *ポイントとは国債の大量買い取り
- *金利が上がるのは本来当たり前
- *どうすれば2%に行くのか
- *賃金が上がらないと難しい
- *QE3でも下がってきたインフレ率
- *住宅好転でマインド変わる
- *まだら模様の米国景気事情
- *フリーランチでない金融緩和
- *高成長のツケが出ている中国
- *日本なりの総合成長戦略を



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日はおなじみの加藤出さんです。今年の2月から東短りサーチの社長を兼ねておられます。社長でエコノミストというのは非常に珍しいのですけれども、といっても本業はエコノミストで、相変わらず海外を飛び回っておられます。原稿もたいへん多いですから出先でもいつも書いているということですね。

加藤さんは金融エコノミストとしてはすばらしい実績を残されていますけれども、もう一つは金融に限らずバラエティに富んだお話をされるというのが特徴で、今日も楽しみにお聞きしたいと思います。それではよろしくお聞きいたします。（拍手）

加藤 出 東短りサーチの加藤でございます。本

日お時間をちょうだいして、4月4日以降の日本銀行の新しい政策が今後われわれの生活にどういう影響を与えていくかというような観点でお話しさせていただきたいと思います。

先ほど浅野さんにお聞きしたら、株がこれだけ上がるのと東洋経済の『会社四季報』もずいぶん売れていらつしやるそうですけれども、私はどっちかというところの政策に批判的なのです。

ですが、私は東洋経済オンラインにも書かせていただいたりして、東洋経済さんはさすが懐深いなど感じています。（笑）

この政策はもろんいい面もありますけれども、ちよつと心配だなどいう面もあります。私は今週火曜日までアメリカに行っておりませんが、あちらの金融政策の下でのアメリカ経済の